

# 新婦人しんぶん

## 新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせませす。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

## 今週の紙面

- 2面 ニュース
- 3面 読者/まんが/乱楽
- 4~5面 非正規公務員のハラスメント被害/女性働く/ホットライン
- 6面 食事情/子育て相談/性売買は女性への暴力
- 7面 新婦人活動/主張/母の歴史



鳥取・境港市 田口恵子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

# 豪雨

# 酷暑

# 異常気象が常態化!?

## 秋田市の水害とその背景をみる



冠水したJR秋田駅東口ロータリー—7月15日午後4時21分(写真提供:秋田魁新報社) 市の災害ごみ引き取りは発災後2~3週間後と遅く、集積所への持ち込みは8月末で停止。営業を再開できない商店や介護事業所の撤退も相次ぐ

今年も豪雨や台風が相次いでいます。秋田県内各地に被害を広げた記録的大雨(7月14日~16日)から1カ月たった8月、浸水被害7000棟ともいわれる秋田市を訪ねました。農民連からのレポートも紹介します。豪雨や酷暑が続く背景について、三重大学大学院教授の立花義裕さんに解説してもらいました。

### 降り続く雨が内水氾濫に

「前日から雨が降り続いていたものの、激しい降り方とは感じなかった。まさか水が上がってくるのは」「行政や町内会から避難情報はなかった」と新婦人秋田支部事務所です。話すのは、浸水被害を受けた自宅を改修して暮らす、広面班の近藤久子さん、讃岐妙子さん、かなづき班の斎藤栄子さん(右下写真)です。

秋田市では、川があふ

れる外水氾濫のほか、雨水が川に排水できず、市街地に溜まる内水氾濫が被害を拡大させました。秋田駅の東側は一面が浸水し、広面町は200軒のうち93%が浸水被害を受けています。自宅近くを太平洋川が流れる近藤さんは、高台に移動させていた車で自主的に避難を開始。通行止めとなった道を迂回し、なんとか親戚宅にたどり着きました。

「水が上がってくるのに気づき、おばあちゃん



浸水の跡を指す斎藤栄子さん。「川の浚渫や排水ポンプ設置など一刻も早くしてほしい。今回のことを防災対策を変える契機に」と

を2階へ。ご飯をもつて、翌日の夕方に水が引くまで1日半、2階で過ごした」と讃岐さん。浸水は床上68センチも。夫が理事を務める120人預かりの民間保育園も浸水し、0~1歳児を2階で保育し、他の子どもは学校や公民館などで分散保育しています。

避難所だった近くの新しい公民館や中核病院も地下の電気設備が浸水し、公民館は再開のめどが立っていません。市が、道路冠水したため市内の状況を確認で

### 被災者に寄り添い要請を

支部は班長と支部常任委員が会員を訪問。駅西側で浸水被害がひどかった榎山地域、ちくば班の高橋安子さんを訪ねると、1階は床板が外れたままです。浸水した大型家具を近所の助けで運び出し、車や台所などの設備はすべて使用不可に。行政から再建支援の情報はまったく届いておらず、今後の暮らしに不安を募らせていました。市内の被害調査は継続

中、支援の基礎となる罹災証明書発行は遅々と進んでいません。仮設住宅となる公営住宅は古くて住める状態ではなく、家賃補助される「みなし仮設」は、高齢者も自ら住宅を探し、契約しなければなりません。支部長の生田目静さんは、「高齢でひとり暮らしの会員さんも多い。被災者の住まいを確保することがまず必要です。」とお知らせしながら開こうと話し合っています。



流木や木の根っこなどが散乱、氾濫した太平洋川上流(写真提供:鈴木一さん)〈記事は2面〉

## 異常気象が起る原因と私たちにできること

三重大学大学院教授 立花 義裕さん (生物資源学研究所 地球環境学講座 気象・気候ダイナミクス研究)

### 異常気象があたりまえに

異常気象が起る原因には、いろいろな複合的な要因がありますが、今回知ってほしいキーワードは「偏西風の激しい蛇行」「北極の極端な温暖化」「気象は連

鎖する」の三つです。異常気象は既にニューノーマル(新しい常態化)し、今後、日本の季節は四季でなく、長い夏と冬の「二季」になるかもしれません。

9月23日号は休刊です

